

「川崎緑化推進債」購入者アンケート結果

市債の個人消化・公募化を通じた資金調達手段の多様化、市民の市政への参画意識の高揚を図るために、緑化の推進事業などを対象にした環境配慮型ミニ市場公募債「川崎緑化推進債」(20 億円)を、平成 18 年 8 月 30 日から 9 月 15 日にかけて、川崎市内在住又は在勤の個人、川崎市内で事務所・事業所を有する法人に対して募集し、9 月 21 日に発行したところですが、その購入者アンケート結果がまとまりました。

複数回答及び無回答があるため、各質問の回答数の合計はアンケート回答者数と一致しません。

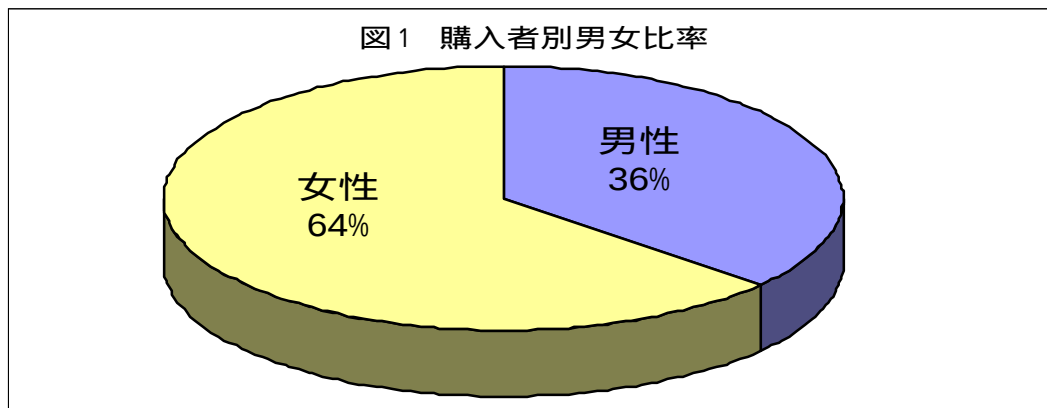
■ アンケート回収状況

販売件数	回答数	回収率
615	305	49.6%

1. 男女別では女性の割合が6割強と高くなっています。

購入者アンケート回答総数 300 人の男女割合は、女性が 191 人(64%)、男性が 109 人(36%)となっており、女性購入者の割合が高くなっています。(前回の多摩病院債と男女比率は同じになっています。)

また、その他に法人からの購入が 5 件ありました。



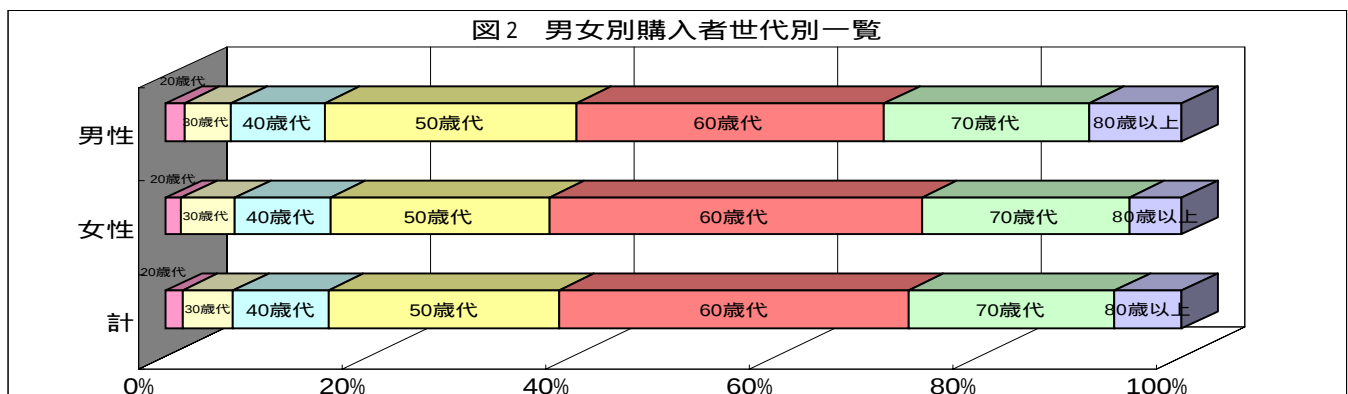
2. 世代別では60歳代から70歳代の割合が約6割と高くなっています。

世代別に見ますと、60歳代が 103 人(34%)で最も多く、次いで 50歳代の 68 人(23%)、70歳代の 61 人(20%)となっています。

■ 男女別・世代別構成

(件)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
男性	0	2	5	10	27	33	22	10	109
女性	0	3	10	18	41	70	39	10	191
計	0	5	15	28	68	103	61	20	300



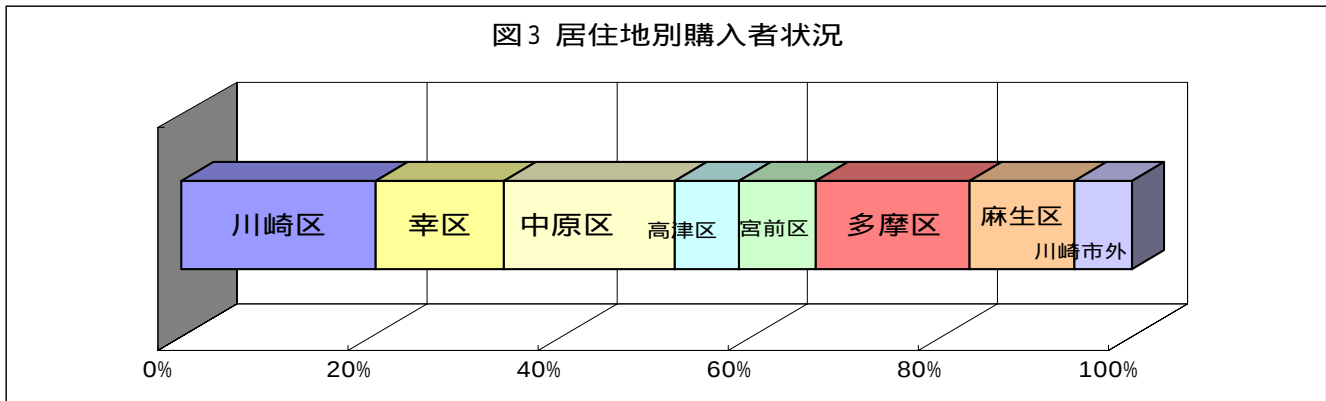
3．居住地域別では市の南部地域の方が多い傾向にあります。

居住地別に見ますと、川崎区が 61 人（22％）、中原区が 53 人（19％）、多摩区が 48 人（17％）、幸区が 40 人（14％）の順で多くなっています。人口割合では南部地域の比率が若干高い傾向にあります。

■居住地別構成

(件)

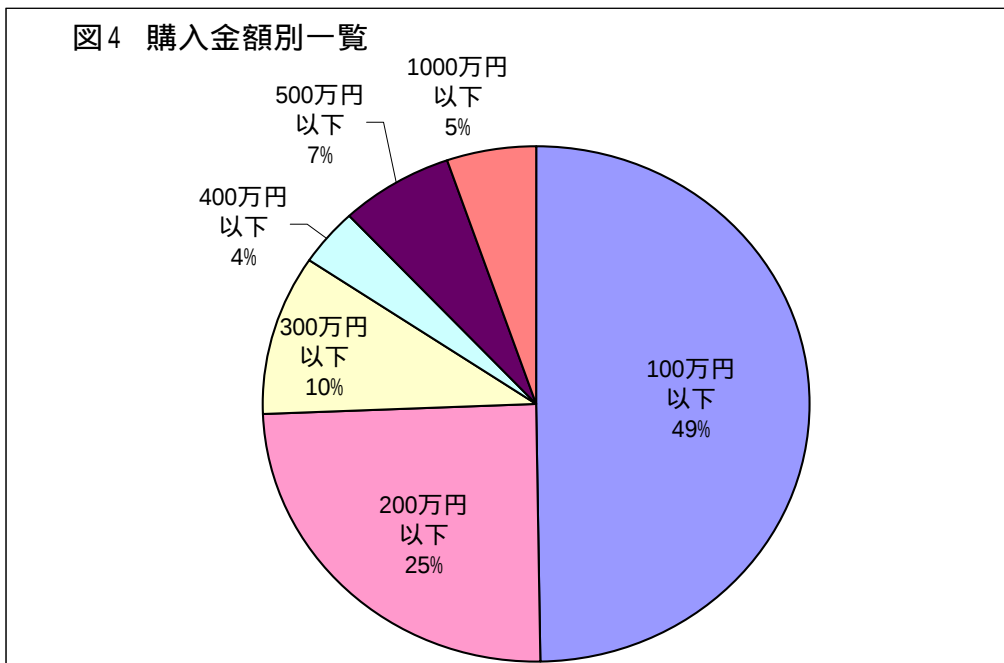
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	計	川崎市外
購入件数	61	40	53	20	24	48	33	279	18
人口(万人)	21	14	21	20	21	21	16	134	
区民に占める割合(%)	0.03%	0.03%	0.03%	0.01%	0.01%	0.02%	0.02%	0.02%	



4．購入金額別では100万円以下の購入者の割合が50%と高くなっています。

購入金額別に見ますと、100万円以下が149人（49％）で圧倒的に多く、次いで100万円超200万円以下の人が74人（25％）となっています。これらを合わせた200万円以下の購入者の割合は、全体の8割近くを占めています。

これは、市債を預貯金代わりに手軽に購入していただけた結果であり、「個人の金融資産の運用方法が多様化してきている中で、このミニ公募債に投資していただく形で、新しい資金の運用先を市民の皆さんに提供する」という発行意義に沿う結果になったと考えています。



5. 一人当たりの平均購入額は143万円で、世代別では60歳代が最も多くなっています。

世代別に一人当たりの平均購入額を見ますと、60歳代が最も多くなっていますが、高齢者層の購入金額は総じて多くなっています。

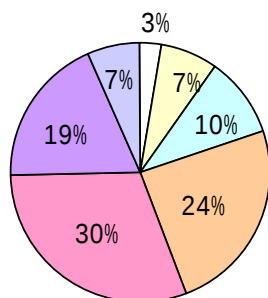
■ 購入金額別構成

(件) (万円)

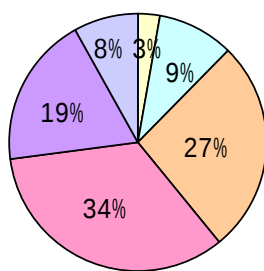
	100万円以下	200万円以下	300万円以下	400万円以下	500万円以下	1000万円以下	計	平均購入額
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	4	0	0	0	1	0	5	130
30歳代	11	2	2	0	0	0	15	94
40歳代	15	7	5	1	0	0	28	111
50歳代	36	20	3	2	4	3	68	190
60歳代	45	25	12	4	8	9	103	217
70歳代	28	14	6	3	7	3	61	211
80歳以上	10	6	2	1	0	1	20	191
計	149	74	30	11	20	16	300	143

図5 購入金額別構成

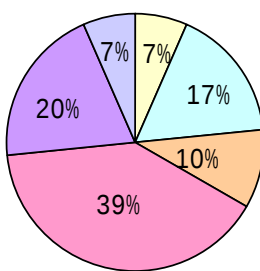
100万円以下



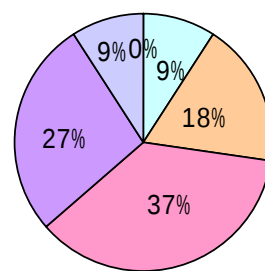
200万円以下



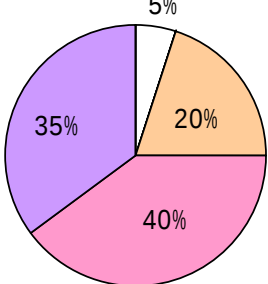
300万円以下



400万円以下



500万円以下



1000万円以下

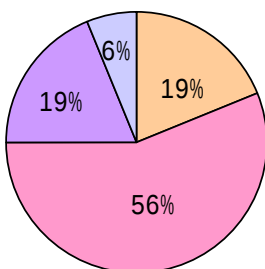
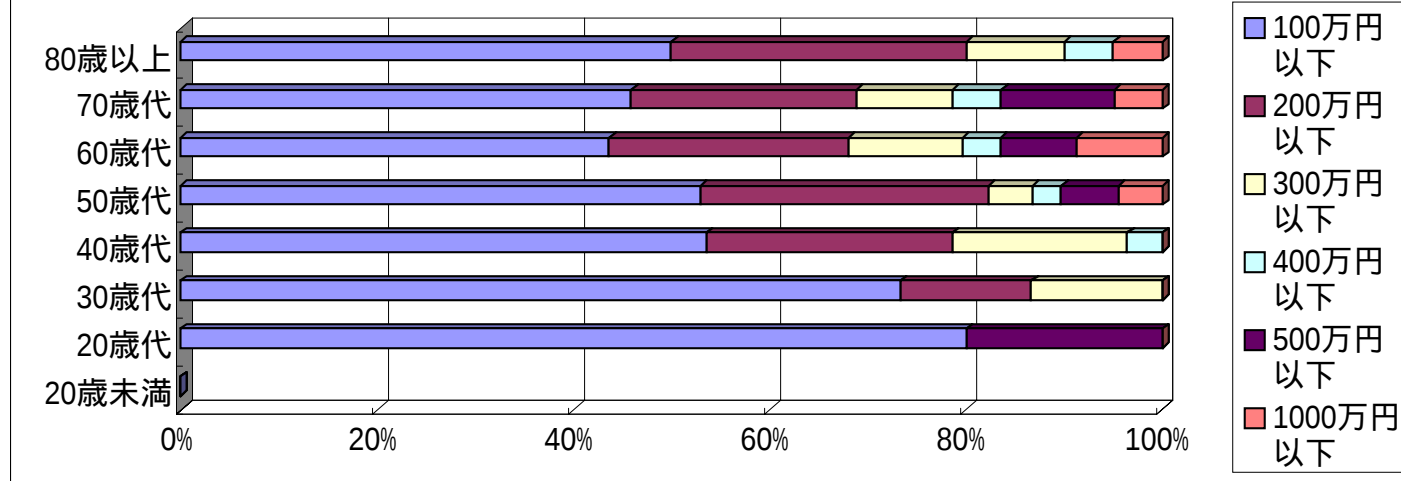


図6 年代別購入金額構成



6. 購入者のうち8割近い方は、市政だよりと金融機関から情報で購入を決定しています。

「川崎緑化推進債」の募集販売を何で知ったかという質問に対しては、金融機関からの勧誘が全体の48%と最も高く、次いで「市政だより」が28%となっています。また新聞広告や新聞報道でも一定の効果がありました。

市債の募集を通じたシティセールスや、対象事業のPRが今後も重要であるということがわかります。

問. この市債の募集販売を何でお知りになりましたか

(件)

市政だより	金融機関	新聞広告	新聞報道	ポスター・ちらし	コミュニティ紙	インターネット	アセリアビジョン	西口表示板
90	156	15	16	10	6	10	0	0

FM放送	家族・知人等	その他	計
0	9	10	322

7. 3割近くの購入者は市が発行するという安心感から購入しています。

148人(49%)の方が、市が発行するという安心感から購入しています。また、「川崎市民だから」が112人(37%)、「対象事業への関心」が117人(39%)となっています。一方、今回の特徴である「金利軽減分の緑化推進事業への活用」という点でも一定の賛同を得られた結果となっており、単なる金融商品としてだけでなく、市に対する信頼感や愛着、対象事業に対する積極的な関心の高さがわかります。

そして、利率が他の預貯金と比べると有利であることを購入動機にした方も74人(24%)おり、「市民が市債の購入を通じて資金の供給者となることにより対象事業への関心を高めてもらうとともに、市民との協働と協調による『誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき』をめざす本市の基本理念に対する理解と市政参画意識の高揚を図る」というミニ公募債の発行意義に沿う結果となりました。

問.特に、緑化推進債を選択した理由は何ですか

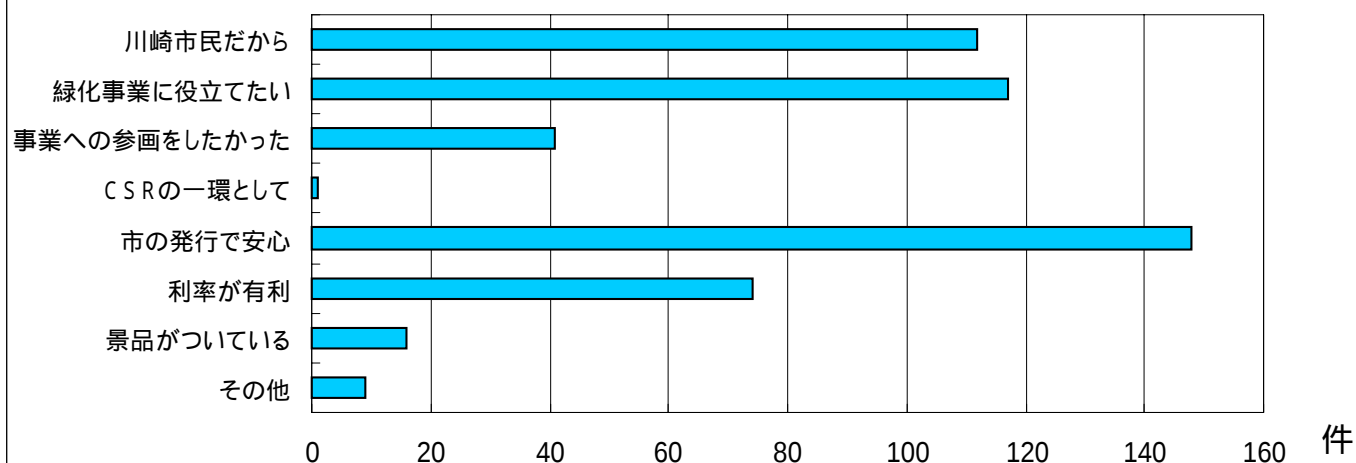
・川崎市民(川崎市内企業)なので	112件
・資金の使途が公園緑地施設の整備や自然保護対策事業などへの活用ということで、 自分のお金を役立てたかったから	117件
・金利軽減分を緑化推進等の事業に活用するということで、自分のお金を役立てたかったから	41件
・CSRの一環として	1件
・市が発行する債券で安心だから	148件
・利率が他の金融商品に比べ有利だと思ったから	74件
・景品[招待券(抽選)]がついているから	16件
・その他(証券会社の勧め等)	9件

[年齢別]

(件)

	市民だから	役立てたい	事業参加	CSR	安心	利率が有利	景品	その他	計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	1	3	2	1	3	1	0	0	11
30歳代	11	4	2	0	8	1	2	0	28
40歳代	11	12	3	0	16	7	2	1	52
50歳代	21	32	7	0	32	13	3	2	110
60歳代	36	40	16	0	53	39	5	2	191
70歳代	22	20	9	0	30	10	4	4	99
80歳以上	10	6	2	0	6	3	0	0	27
計	112	117	41	1	148	74	16	9	518

図7 緑化推進債を選択した理由は何ですか



8. 金利選好によらない購入者の方もいらっしゃいます。

利率についての質問では、「5年もの地方債程度」が123人(42%)で最も多く、次いで「5年もの国債程度」が100人(34%)で、これらを合わせると8割近くの方が5年利付国債の利回りを参考にした金利を望まれていることがわかります。

その一方で、「資金用途が明確であれば利率にこだわらない」が37人(13%)、「5年もの定期預金程度」が23人(8%)となっており、市債を金融商品として金利選好で購入するのではなく、市政参画の意味から購入する方も多いことがわかります。

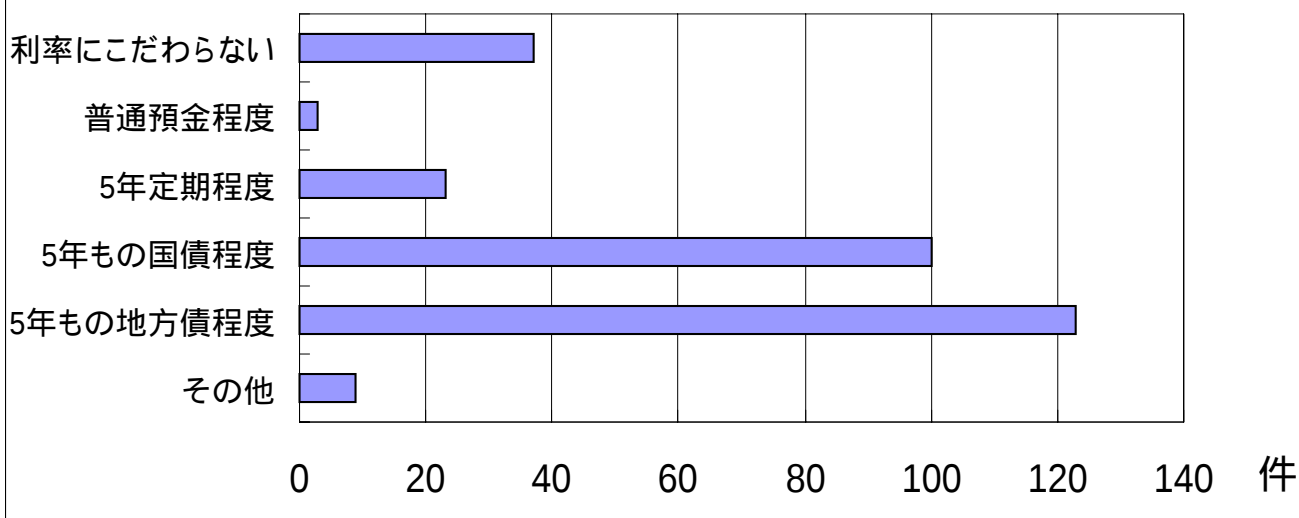
問. 次回は、利率がどの程度なら購入したいと思いますか

・資金用途が明確であれば利率にはこだわらない	37件
・普通預金の利率程度	3件
・5年もの定期預金の利率程度	23件
・5年もの国債の利率程度	100件
・5年もの地方債の利率程度	123件
・その他(今より高ければよい等)	9件

(件)

	利率不問	普通預金	5年定期	5年国債	5年地方債	その他	計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	3	0	1	0	1	0	5
30歳代	2	0	0	9	4	0	15
40歳代	1	0	0	10	17	0	28
50歳代	7	1	4	27	29	1	69
60歳代	13	0	13	32	36	5	99
70歳代	9	1	3	14	28	3	58
80歳以上	2	1	2	8	8	0	21
計	37	3	23	100	123	9	295

図8 次回は利率がどの程度なら購入したいと思いますか



9. 高額の購入限度額設定を希望される方も多くなっています。

購入限度額についての質問では、「1000万円まで」が81人(27%)と最も多くなっていますが、次に多い「限度なし」の73人(25%)を加えると154人(52%)となり、高額需要もかなりあることがわかります。

問. 購入限度額はどの程度が適当だと思われますか

(件)

	100万円	200万円	300万円	500万円	1000万円	限度なし	計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	1	0	0	1	3	0	5
30歳代	1	2	0	2	6	4	15
40歳代	7	1	4	1	8	7	28
50歳代	13	2	5	9	23	17	69
60歳代	17	8	6	15	27	24	97
70歳代	17	4	10	2	11	18	62
80歳以上	5	4	4	0	3	3	19
計	61	21	29	30	81	73	295

図9 購入限度額はどの程度が適当だと思われますか

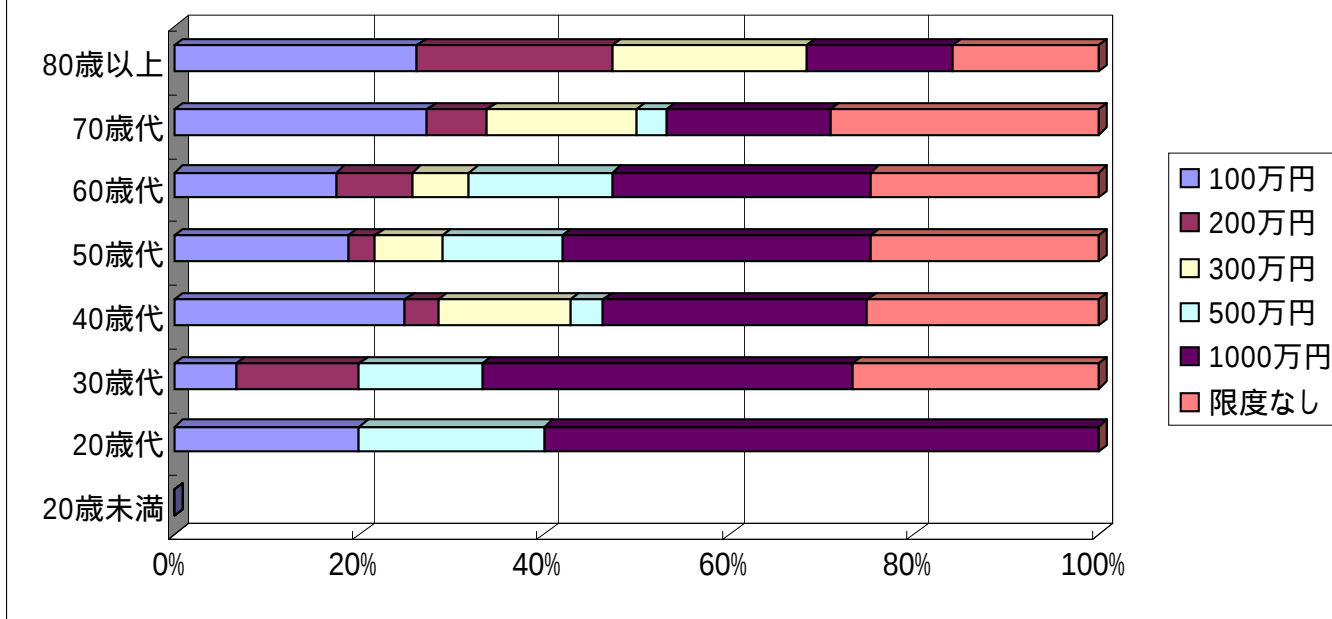
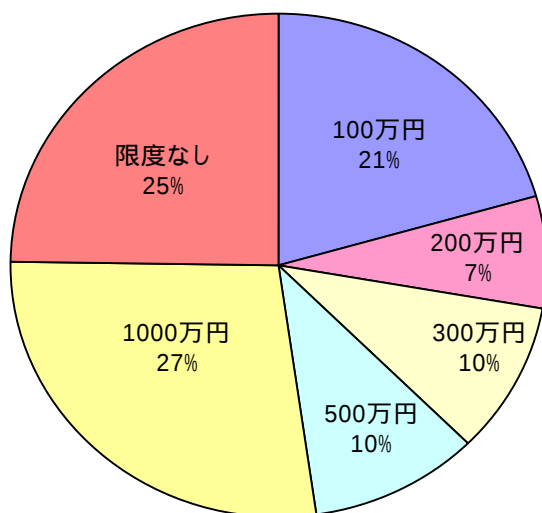


図10 希望する購入限度額一覧



10. 満期年限では「5年」を希望する購入者が約7割を占めています。

満期の年限についての質問では、「5年」が188人(66%)で最も多くなっていますが、「3年」が63人(22%)と次いで多く、5年以下では93%とアンケート回答者のほとんどとなっており、短期年限に対する希望が多くなっています。

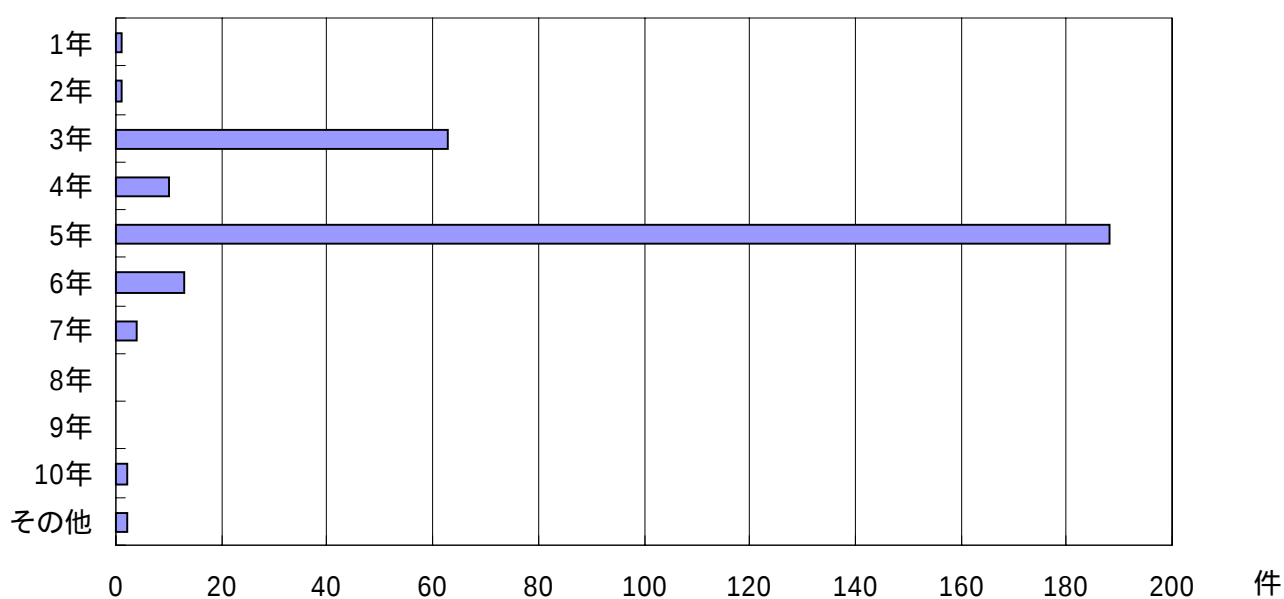
問. 満期の年限はどのくらいが望ましいですか

(件)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
1	1	63	10	188	13	4	0

9年	10年	その他	計
0	2	2	284

図11 満期の年限はどのくらいが望ましいですか



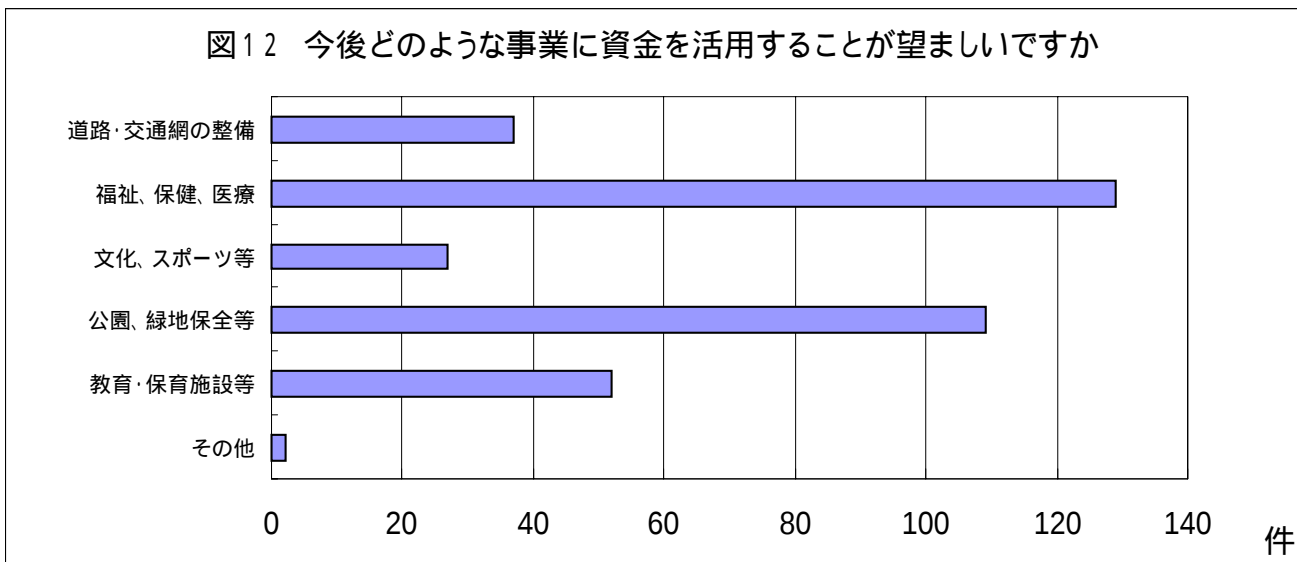
1 1 .対象事業としては「福祉、保健、医療等」を希望する購入者が最も多くなっています。

対象事業についての質問では、「福祉、保健、医療等」が 129 人(43%)で最も多く、次いで「公園、緑地保全、生活環境等」が 109 人(36%)となっており、社会福祉や環境整備などに対する市民の関心の高さがうかがえます。

問. 今後どのような事業に資金を活用するのが望ましいですか

・道路、公共交通網等の整備	37件
・福祉、保健、医療等の整備	129件
・文化、スポーツ、地域活動施設等の整備	27件
・公園、緑地保全、生活環境等の整備	109件
・教育、保育施設等の整備	52件
・その他(特にこだわらない等)	2件

	道路・交通	福祉・医療	文化・スポーツ	公園・緑地	教育・保育	その他	計
20 歳未満	0	0	0	0	0	0	0
20 歳代	0	2	0	4	0	0	6
30 歳代	1	6	5	3	4	0	19
40 歳代	4	9	5	10	7	0	35
50 歳代	9	28	6	24	16	0	83
60 歳代	12	49	8	37	16	2	124
70 歳代	7	26	1	25	5	0	64
80 歳以上	4	9	2	6	4	0	25
計	37	129	27	109	52	2	356



12. 購入者のうち半数以上の方がこれまで市債購入の経験がない方でした。

川崎市債の購入経験についての質問では「ない」が163人(54%)となっており、そのうち103人が「発行されていることを知らなかった」と回答しています。個人販売促進のためのさらなる広報活動の充実が必要であると考えられます。

問. 以前に、川崎市債を購入されたことはありますか。ない場合、その理由は何ですか。

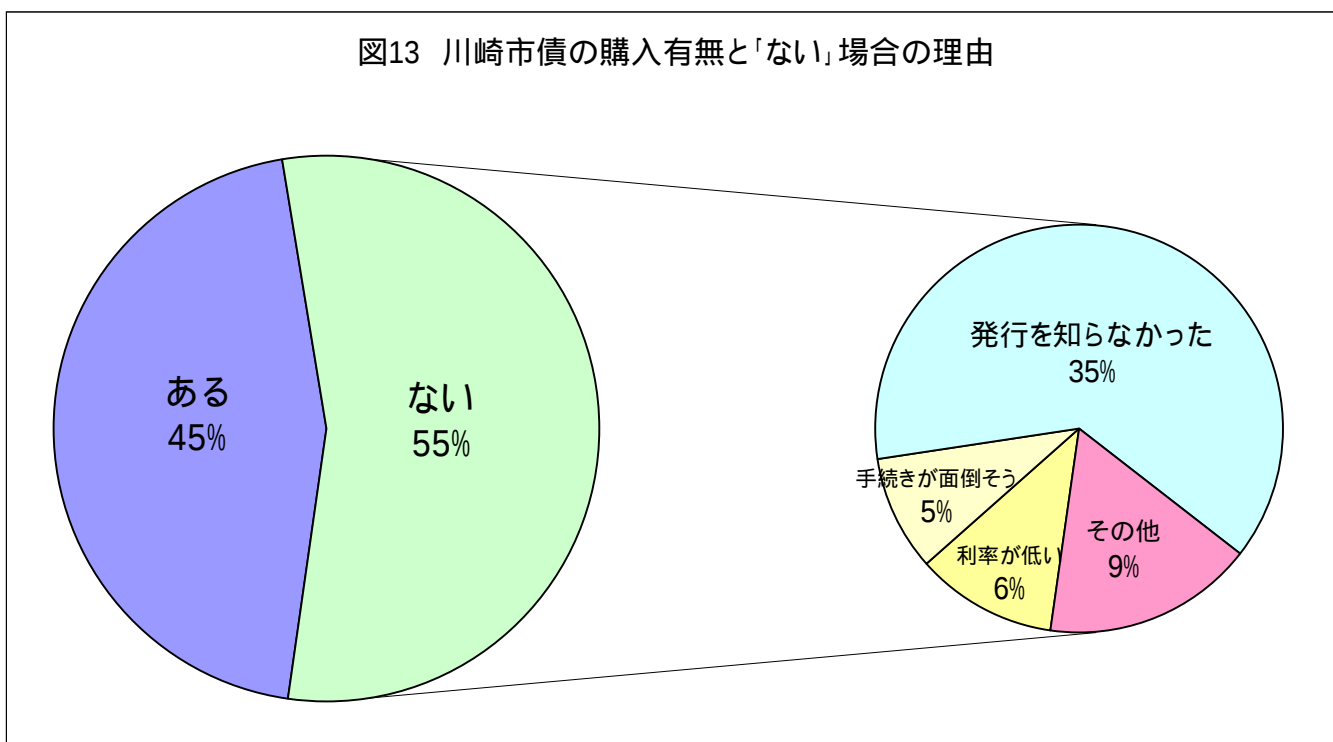
(件)

	ある	ない					計
			利率が低い	手続きが面倒そう	発行を知らなかった	その他	
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	1	4	0	0	2	2	5
30歳代	2	13	1	2	8	2	15
40歳代	13	16	1	1	12	2	29
50歳代	24	46	6	5	27	8	70
60歳代	49	50	4	4	32	10	99
70歳代	37	23	5	1	14	3	60
80歳以上	9	11	1	2	8	0	20
計	135	163	18	15	103	27	298

問. 前の質問で、「ない」とお答えの方に伺いますが、その理由は何ですか

・利率が低い	18件
・手続きが面倒そう	15件
・発行されていることを知らなかった	103件
・その他(興味がなかった、資金不足等)	27件

図13 川崎市債の購入有無と「ない」場合の理由



13. 約9割の購入者が今回の市債募集を通じて「植樹事業」を知りました。

対象事業を知っていたかという質問では、「以前から知っていた」が34人(12%)、「市債の募集で初めて知った」が258人(88%)という割合でした。市債の募集を通じて「シティセールスや対象事業のPRを行う」ということには効果が認められますが、今後も事業自体のPRを積極的に行っていく必要があります。

また、今回の特徴である金利軽減分の事業活用という取り組みに対する意見は、軽減の継続と中止がほぼ半々となっており、今後の検討課題といえます。

問. 金利軽減分を今年度は「市民による10万本植樹事業」に充てますが、「植樹事業」のことをご存知でしたか

(件)

	知っていた	初めて知った	計
20歳未満	0	0	0
20歳代	0	5	5
30歳代	1	13	14
40歳代	1	28	29
50歳代	8	62	70
60歳代	10	83	93
70歳代	9	52	61
80歳以上	5	15	20
計	34	258	292

問. 金利を国債と同程度の利回りにさせていただくことにより、通常の川崎市債よりも若干低めの金利で発行されており、この軽減された金利分は、川崎市の緑化基金に積み立てた後、緑化の推進事業などに活用させていただきます。このような取り組みについてどう考えられますか。

(件)

	軽減継続を希望	軽減中止を希望	その他	計
20歳未満	0	0	0	0
20歳代	4	0	1	5
30歳代	7	7	0	14
40歳代	13	15	1	29
50歳代	36	34	1	71
60歳代	51	45	3	99
70歳代	25	34	0	59
80歳以上	11	9	0	20
計	147	144	6	297